

第 4 回 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2022年5月13日（金） 14：00～15：59	
開催場所	町田市立本町田東小学校 1階家庭科室	
出席者 (敬称略)	委員	末吉委員、永山委員、村田委員、白石委員、花田委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中瀬委員、小原委員、北澤委員、本城委員、◎若月委員、望月委員、西山委員 (◎会長)
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター (委託業者) 株式会社松田平田設計
傍聴者	0名	

議事内容

1 第3回基本計画検討会の振り返り

新たな学校推進課（資料1-1～2説明）

2 育てたい子ども像について

新たな学校推進課 本日欠席されている委員からの意見を紹介したい。

■いろいろなことに興味を持って主体的に学んでほしい、それらを体験していく子どもに育ててほしい。

■環境の変化に対応できる子に育ててほしい。

続いて、各委員のお考えを伺いたい。

委員 育てたい子ども像かどうかというと、ちょっとずれてくるかもしれないが、私が我が子を育てていく上でこうあってほしいと思っている一番大事なところが、自分の足で歩いていく子、そういう子に育ててもらいたい。もちろん、いろんな人に助けてもらいながら、助けを要請することができるという大前提の下に、自分の足で歩いていける人になってほしいなというふうに思って、今、子育てをしている。

委員 私はいなほ会に入っているが、この間、町田第三小の昔の陶化学校のときの資料を見た。明治27年（1894年）のところに子どもについて、「至誠一貫」というよくお相撲さんが言う四字熟語で、常に相手の立場に立って真心を尽くすと書いてある。これが多分、その頃、陶化学校のときの子ども像だったと思う。ちょっと難しいので、私が考えるには、今はやっぱりいじめとかの問題があるので、相手の立場に立って考えられる優しい心を持った子どもになってほしい。

委員 育てたい子ども像について、町三小の教育目標でもあります心豊かで、自分に自信を持ち、相手を尊重しながら自己表現できる児童。私は、まず自然豊かな環境の中、子どもたちが素直で明るく、元気よく、健やかに、お友達から慕われ、人に優しく、温かな気持ちの持てる子どもに育ててほしい。

町三小に今、孫がお世話になっている。両親が共働きのため、あるときは先生に対して、父親、母親像として慕うことがあるかもしれない。そんな職員の皆様におかれましては、温かく包んで見守ってほしいと思う。

私は常に、学校は学びの場であり、また、子どもたちには癒しの場でもあると思っている。

委員

これを聞いたときに一番最初に浮かんだのが、自分で考えて行動に移せる子。特にこのコロナですっとここ数年やってきて、自分でも変だなと思ったりすることも流されていたり、周りがそういうふうに見えたりすることとかがあったりするので、やっぱり自分で考えて、これが正しい、これは間違っているということ判断できて、それが判断できたときに自分が正しいと思うことができる勇氣のある、そういう子どもたちに育ててほしいなど。そうすると、すごく広い意味で、それが判断できるような子どもになるような周りの環境、情報、いろんなものを体験させるということがついてくるので、そういうのが一番いいかなと思った。

委員

私は、このお題をいただいたときに、自分の意見も尊重し、相手の意見もちゃんと聞いて、お互い違うところを認めながら意見交換できるようなことになってほしいと思った。

委員

私は現在、ピアノの指導をしているが、指導者資格を取る前はスポーツクラブで水泳の指導を15年ぐらいしていた。そこで子どもたちを見て感じたことというのは、幼稚園、小学校、中学校の時代は、卒園してしまったらそのままその後が、幼稚園の時期にこのような子が大人になってどうかというところは見えないということがあると思うが、長い期間、子どもを見ていると、例えば、小さいときにすごく素直でいい子だねというふうに言われていたお子さんが、中学校になると不登校になってしまったりとか、そのときの教育目標に合っていたと思われる子どもの成長した先がつかずくということも見ている。

教育目標というものを掲げ、型にはめることの危険性をすごく感じている。

型にはめるための目標を立ててしまうと、子どもはそこに合わせて自分を素直に出せなかったりとか、偽ってということはないが、悩むことがあってもそれを出さずに明るい子でいようとか、自分を少し押し殺してしまっているということがあると思う。明確な言葉で言えないが、そういうことにならないような目標を立てられるといいのかなと感じている。

割と小さい頃に伸び伸び、あまり周りの目を気にせず自分の意見を言っていた子というのは、中には、例えば幼稚園の頃から見ていた子が中学校の先生になって、息子の担任になったりしたこともある。小さい頃は周りの目を気にせずに伸び伸び、自分の思ったことを言える、それで友達とぶつかったとしても、そこでまた解決していく、自分の意見を言っている子たちというのは、負の意見であっても表現ができていく子たちというのは、大人になってからもすごくいい成長をしているように感じる。両方とも、スイミング時代も長く教えている子が多くて、その後もお付き合いがある方も多かったりとか、ピアノもすごく同じで、3歳、4歳ぐらいから始めて

大人になるまでという長い期間を見ていると、そのときそのときの状況に当てはまっていればいいということではないということを感じている。

委員

育てたい子ども像ということで、このお題をもらったときに、まずもって小学校というのは、やっぱり学習指導要領があって、それを目標に組み立てられて児童は育っていくものだということで、それに関わる人たち、学校長だったり、教職員が様々な思いを持って子どもを育てるということでは非常に大事なと思う。

未来社会に生きるための準備ということで、非常にそういうところを思うので、やっぱり積極性だったり創造力、あるいはいろんな学力をつけるということを養いつつ、そこに柔軟な心を持った子どもに育てていくというのが非常に大事な。いろんな心を持つというのは、やっぱり優しさだったり、人に対する協力度、子どもの時点でそういうところを思いつつ日々暮らしていくというのが非常に大事。

それと、やはりグローバル社会というのが言われているので、これからの社会というのは日本語だったり、あるいは英語だったり、いろんな意味ではグローバル社会なので、英語というものをもうちょっと力を入れてほしいというのが自分の一つの考えではある。

というのは、自分も海外に出て行って、誠に残念ながらしゃべれないというのがあり、苦労したなということがあるので、一部の人間かもしれない、あるいはその時代はもっと多いかもしれないが、そういったところで、いろんな意味で頑張ってもらいたい。

委員

私は、ノーと言える日本人、ノーと言える人間になってもらいたいなと思っている。特に親しい間だと、なかなかノーとは言えないので、小さいうちから、親しい人にこんなことを言われて本当は嫌なだけけれども、しょうがない、イエスと言っちゃおうなんていうことは、多分、私自身もあるので、それはいけませんということで、嫌なことは、親しくてもノーと言える人間になってほしいと思う。

委員

私としては、この会合自体が少子化が進んでいく中での今後の学校形成ということで皆さん考えていると思うが、協調性のお話を皆さんがおっしゃっている。集団での生活、いかに協調するか、お互いを尊重し合うかということももちろん大事だが、せっかく少人数で行う教育であれば、好きなことを好きなように取り組める環境をつくってあげたいということが僕の思い。

それと併せて、先ほどお話があった国際的な広い視野を持って皆さん取り組んでいただきたいなという思いがある。私個人としましても海外の方と仕事をする機会があると、どうしても億劫になってしまうということもありますので、これからますます国際的な仕事が増えていくと思うので、そこら辺も進めていただければなという思いがある。

委員

私は、まずもって言いたいのは思いやり、この気持ちを育てていただきたいなという一言に尽きます。元気で明るい子とかいろいろあるが、思いやりというのは数字ではかれないので全く難しいところではあるが、そういう気持ち。授業で言えば道徳の授業があるが、やはり子どもたちは初めての子もいれば、幼稚園あるいは、そ

ういう形でお友達は既にいるというお友達も上がってくることもある。最初に見る、初めて見るというのもお互いあるわけで、その中で探っていかななくてはいけない。まずは思いやりがどういうふう育てられていかなというところがあると思うのでそこを強調したいと思う。

委員 私は、子どもたちが伸びるときというのは、物事に楽しんで取り組む、興味を持って取り組むときじゃないかなというふうに思う。また、失敗を恐れて尻込みする子もよく見るが、失敗を恐れてというのかな、まずやってみるということが大事なんじゃないかなと。物事に楽しんで取り組む子を育てたい。言い換えてみると、未来への希望を持てる子というのか、大人は未来への希望が持てる社会をつくっていかなくちゃいけないなというふうに思っている。

委員 みんな違って、みんないいんだよということを伝えていきたい。小学校に通うというのが負担に感じる子もいたり、あとハンデがあったりなかったりという子もいると思うが、その子がその子なりに学校に通えるというのが大事だと思うので、いろんな人がいて、いろんな考えがあって、いろんな行動があって、それを認めていければいいんだよというのを伝えていければと思う。

会長 皆様から貴重なご意見を伺うことができた。学校長として実際に子どもたちを見て、どんな子どもに育てたいかというのを考えていくが、今度はそれを3校、まだ知らない子どもたちを前に考えるというとても難しい作業になると思う。さっき、みんな違って、みんないいという話をいただいたが、このメンバーだけでも本当に様々な意見が出た。まとめていくのはとても難しい作業ではあるが、委員の意見や意見募集の結果を参考にして、3校の校長のほうで本町田地区における新たな学校の教育目標を作成してまいりたい。

3 通学負担の軽減について

新たな学校推進課 (資料3-1～2説明)

前回の検討会において様々なご意見をいただいたので、既存の路線バスの利用以外の部分、スクールバスなどの議論の方向性、今後の検討スケジュールの説明に関して不明瞭な部分があったところをあらためて説明。

委員 情緒障がいのお子さんへの補助の話があったが、今は在籍校で基本は行われている通級指導学級で、別の学校に通うことがあったときに、子どもの分の交通費は出るが、親の分の交通費が出ないという状況だった。そのあたりも検討していただければと思う。

委員 情緒だけではなく知的や肢体不自由も含めて、同様に検討してもらえればと思う。

4 通学路の安全対策について

学務課 (資料4-1～3説明)

〔 ワークショップ 〕

町三小グループ 町三小のグループでは、通学路候補として、弥生ヶ丘のほうから抜ける道が新しくできるんじゃないかということ、藤の台球場の中を通り抜けられないかという意見が出た。ただ、藤の台球場の中は道路が舗装されていない部分を通ろうとなると、ちょっと通学路としてはどうかということも、現地を見てどういう状況かを確認していきたいと思う。また、今、町三小学区で通学路になっているところだが、ここは新しい学校になったら通さないほうがいいよね、本町田東小の場所に行くなら、そこを通る必要はないよねという、逆に通学路としての廃止の話が出た。そこも含めて、現地で確認をしていきたい。

本東小グループ いただいたご意見で特徴的なものが、既存の通学路をいま一度安全性をちゃんと見直しをして、50年、100年先を見越した通学路という考え方で、今後、新しい学校について児童がより安全に使えるようにしたほうがいいのかという意見があった。

あとは、ポイントポイントで、ここに信号機があったほうがいいんじゃないかという意見もあった。例えば、今井谷戸の近くのセブン-イレブンが出入り口が非常に多いので、その出入り口を1点に集中でないかなども検討できればいいなという意見もあった。同様に、今井谷戸近くの飲食店近くの駐車場を2分割して道を造ってもらえたらという意見もあった。

本小グループ 本町田小学校から本町田東小のほうに向かうルートをメインに意見が出た。新しい道という意味では、消防署前と木曽団地東の交差点の間にラーメン屋さんがあるが、こここのところの北に抜けるような道を使えると、こっちのほうの子どもたちが通いやすいのかなという意見があったが、ここら辺がすごく狭い、車もぎりぎり通れるような道なので、そこが心配という意見があった。

あともう一つ、鎌倉街道に出る道、今、鎌倉街道が通学路になっていない、配送業者のセンターがある辺りなど、鎌倉街道を使えるのであれば、本町田小学校側からここを抜けて行ったほうが早く行けるのかなという意見があった。

安全に関する意見としては、鎌倉街道を通れるといいということもあるが、工事をしていて、仮のガードレールが置いてあるような状態なので、状況によってはちょっと心配という声もあった。

あと、配送業者のセンターの前のところを通るのも、広さの問題だったり、ヤマトの車両が出入りするところでの心配、あと、道がちょっと暗いのかなということでの心配の意見があった。

あとは、本町田小学校の西側の町田市民病院まで抜ける大きい通りが、橋も造っている。この道ができるまでの間は、町田街道から抜け道でこの中の辺りを通る車が多いということで、そこら辺が心配だなという声もあった。

新たな学校推進課 ご意見は、次回の資料としてまとめて提示していく。ご指摘いただいた部分については、実際に一緒に現地を見て回るということも想定している。そちらの日はあらためて連絡する。

5 歴史の継承について

新たな学校推進課 （資料5-1～2説明）

〔 ワークショップ 〕

新たな学校推進課 皆様からお話しいただいた内容を次回の検討会では資料としてまとめさせていただいて、リスト化した上で、今後はそれをどのような形で残すかというところを中心に検討したいと考えている。

6 学校施設配置について

新たな学校推進課 （資料6-1説明）

委託業者 （資料6-2説明）

先日行った学校配置に関するワークショップについてまとめた。

第2回の意見を受て、6-2の右側、やはりこれから校舎づくり、配置計画を行っていく上で何が大切か、何が優先順位が高いかを、皆様のご意見を大切にするために整理していく表にした。

例えば、一番上、教育環境・生活環境づくりのためというところでは、校庭、日当たりのよさ、大きさの確保、行事の際、使いやすさとか形状というものが大切になってくるんじゃないか。2番目、校舎の位置に関しては、C案で意見があった校舎間や体育館までの動線の距離とか、あとはセキュリティーの話、地域の人が利用した際の施設の分離が大切だということ、あと3番目、採光、明るい教室をつくっていききたいというご意見、そこが重要じゃないかというお話を整理していきたい。

2つ目の放課後活動の拠点づくりのためというところで、やはり正門側の駐車場の位置、校庭や開放施設への入りやすさというところを大切にしていきたいというところが整理できたと思っている。

3つ目の市民生活の拠点づくりでは、地域の皆様が使っていただくためというところで、校舎の位置としては、校庭や開放施設への入りやすさなどの地域利用者等のセキュリティーが大切だということを重点的な整備項目と考えている。

そして4つ目の利用者の安全性確保のためには、この学校の土地条件を鑑みて安全な学校をつくっていくために大切なことというところで、先ほど通学路のお話もあったが子どもたちの入ってくる門の位置というところで、やはり西側や南側の門の活用、車両と児童との動線の門の分離ができないかというところが大切ではないかと。

あともう一つは、校舎の位置としては西側斜面寄りに配置する場合の心配事、東側道路からの視線や学校と団地側との視線、やはりそういうところを大切に案として整理していく必要があると考えている。

このように、第2回のワークショップでいただいた意見を、何を優先にして配置計

画をしていくかということ整理しながら、この後、皆さんと敷地の中を回って、その中でこういうところが気になるかということも、もう1回現地を確認していただけるのではないかと考えている。

〔 学校候補地の敷地見学後、解散 〕